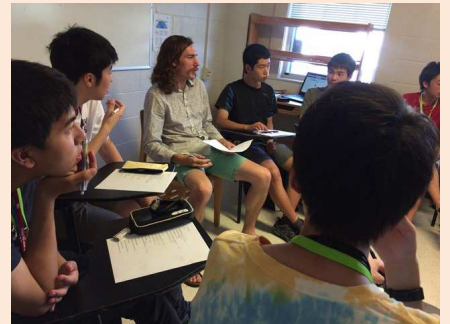


■現地研修 4 日目： 7 月 12 日（水）

研修 4 日目。アメリカでの生活にもだいぶ慣れ、他国留学生とのコミュニケーションやカフェテリアでのアタックにもどこか余裕すら感じます。午前午後、そして夜と初日から変わらず続く盛りだくさんのプログラムと徒歩移動（大学～最寄駅間）に、疲れの蓄積は明らかですが、さすがは富山中部生、弱音や文句を吐くどころか、「昨日より今日」と日々前のめりに何かを得ようと頑張る姿が見られます。

午前中は英語クラスが実施されました。各教室ともに、ゲームや前日の活動内容（訪問施設）発表など、アイスブレイクで緊張をほぐした後に、様々な工夫が凝らされた実践的なレッスンがスタート。アメリカでの驚きや日本との違いについて、その理由とともにプレゼンテーションをしたり、与えられた単語や熟語を skit にて具体的かつ自由に表現をしたり、抽象名詞を別の言い方（言い回し）で伝えたり、となかなか難易度の高い内容もありますが、持ち前のアグレッシブさを徐々に発揮して楽しみながら、そして他国生ともしっかりと関わりながら取り組む姿がありました。



さて、本日はいつも以上のタイトスケジュール。昼食を 20 分で済ませるや否やカフェテリアを出発。癌研究では全米トップレベル、病院も併設し、臨床治療と研究において高い評価を得る「Dana-Farber Cancer Institute（ダナ・ファーマー癌研究施設）」を訪問。同施設の博士研究員として、特に「肺がん」の研究をされている「光石 陽一郎」先生にご講演をいただきました。自己紹介を兼ねての研究分野についての説明、癌のメカニズムについての簡単なレクチャーなど、先生ご自身幾分難解でつまらないかなと仰っておりましたが、しっかりと食らいつき、時折投げかけられる専門性の高い質問に対してほぼ正解を返してくる中部生、光石先生も驚きながらも嬉しそうで、お話がさらに熱を帯びてきたことは言うまでもありません。その後、アメリカにて研究を進める理由、改めて海外へチャレンジした理由について、同研究を取り巻く環境についての日本との違いや、ご自身のビジョンを交えて話していただきました。見た目通り、穏やかな口調で、丁寧かつ的確に生徒たちからの質問に答えていただき、およそ 1 時間 30 分の講演は文字通りあっという間に過ぎました。



その後、短時間ではありましたが、施設外観と程近くにある「ハーバード・メディカルスクール（※ダナ・ファーマーとは共同研究など提携関係にあります）」のキャンパスを散策し、最寄り駅の Longwood Medical へ向けて、施設を後にしました。



夕食は、ボストン・コモン（中心部にある全米最古の都市公園）周辺にてグループごとに食べることにいたしました。タフツ大学寮の食事は、その豊富な種類とおいしさに生徒たちも毎食楽しみにしていますが、寮滞在ゆえに自ら購入することは初めての体験、実践的な英会話の練習としても新鮮な様子で楽しんでいました。

本日のイブニング・アクティビティーは、ボストン美術館（Museum of Fine Arts Boston）見学。所蔵品 50 万点を超えるその規模とそれらの芸術的・歴史的な価値は言うまでもなく全米トップレベルです。モネ、セザンヌ、ルノアール、ゴッーギャン、ゴッホなど錚々たる芸術家の作品も目玉ですが、仏画、絵巻物、浮世絵、刀剣など日本美術の優品も多数所蔵し、日本との関係が深いことでも知られています。無料観覧時間帯での訪問にて、1 時間 15 分ほどと、その所蔵数からすればあまりに短い時間でしたので、走り回るようにお目当ての絵画、美術品を見て回りました。

夕方には大雨洪水警報が出るなど、一時懸念がありましたがほどなくして解除されて被害はありませんでした。また、日中は地下鉄の市街中心部のラインが運行停止で遠回りを余儀なくさせられるなど、日々いろいろな理不尽にまさに試されているようですが、生徒の皆さんは文句を言う前にどう対応すべきか、何をすべきか、常に前向きにとらえる姿や言動にはすでにたくましさも垣間見えます。

